

# 中国語における「動作－結果」の統語表現と その認知類型学的な解釈について<sup>1)</sup>

張 黎

## Explanation of the Resultative Construction in Chinese Cognitive Typology

Zhang Li

キーワード：補語、了、動的な結果、結果構文、認知類型

### 1. はじめに

動作行為と動作結果は、人類言語が表すべき基本事象の一つである。本稿ではある動作の実現（発生、継続、終了）及びそれに関連し影響を受ける各種結果を「動作－結果」と表記する。「動作－結果」という基本事象について、人類言語は共通の表現手段を有するが、同時に、言語が違うため、その「動作－結果」の意味内包及び統語上の表現形式も異なる。このような意味内包と統語構造上の違いは、結局のところ言語の認知類型の違いによりもたらされるものであると思われる。文法現象に見られるこのような違いを検討することは、個別言語の文法に対する具体的研究となると同時に、一般言語学の理論の発展に寄与するものである。

本稿は中国語の「動作－結果」における意味内包とその統語的表現形式を検討し、それに基づいて対照言語学の角度から中国語における「動作－結果」の認知類型学的特徴を考察する。

---

平成22年5月19日 原稿受理

大阪産業大学 教養部

1) 本稿は、国際中国語学会第16回学術年会（北京大学2008年6月1日）において、発表したものであり、屈承熹先生からコメントご意見をいただいた。その後、さらに漢語認知語法與対外漢語語法教学論壇（北京語言大学2009年9月19日）において発表し、戴浩一先生からコメントをいただいた。ここに併せて感謝いたします。

## 2. 補語の分類と結果の種類

### 2.1

広い意味での結果には物的な結果と動的な結果がある。例をご覧いただきたい。

(1) 她 织 了 一 个 毛 衣。 / 他 写 了 三 篇 小 说。

彼女 編む た 一 着 セーター / 彼 書く た 三 篇 小説

彼女はセーターを一着編んだ。 / 彼は三篇の小説を書いた。

(2) 田中 喝 多 了。 / 小 王 写 完 了 作 业。

田中さん 飲む 過ぎる た。 / 王さん 書く 終える た 宿題

田中さんは飲み過ぎた。 / 王さんは宿題をやり終えた。

(1)の“毛衣”、“小説”は動作により生成された物的な結果であり、(2)における“多”、“完”は動的な結果である。

広義の動的な結果の分類は補語に対する分類の問題に関連する。なぜなら、中国語語学界では一般に補語はすべて動作の広い意味での結果を表していると考えられるからである。生成文法理論においても、補語は単に動作の完結性特徴に過ぎないとしている。しかし、本質から言って、中国語の補語は均一の意味範疇ではなく、一種の統語的な位置であり、固定された文成分の位置なのである。この補語という文法位置上には豊富な意味内包が含まれるため、それぞれ区別して取り扱わなければならない。

#### 2.1.1.

形式から見て、中国語の補語は先ず、“得”字補語か否かで分類される。形式上の違いは必ず意味上の違いを伴うものと考えられる。張黎(2008)では、“得”字補語は主観性のより強い補語であるとしている。このような補語は結果と見るべきではなく、“得”を付すことによって、主観的な態度や評価あるいは描写をあらわしている。次のようなものが該当する。

可能補語：他看得懂英语。(認定)

評価補語：田中的汉语说得很好。(評価)

描写補語：他累得满头大汗。(描写)

認知類型の角度から見れば、これらのタイプの補語はいずれも統合的な認知行為であり、狭義の結果構文の認知方法とは異なるものである。狭義の結果補語構文で表しているのは時間的順序を軸とした離散的な認知行為である。

“得”字補語における“得”は、前置される動詞或いは形容詞で描写される動作や状態を話者(認知主体)の視野に導き、話者が認定・評価・描写或いは比況の対象とするのに

作用する。つまり、“得”は主観化マーカーであると言える。

同様に、“个”字を使った補語も一種の主観性補語である。次の例を比較していただきたい。

(3) 请 你 把 这 个 问 题 说 清 楚  
請う あなた を この 問題 言う はっきりと  
この問題をはっきり説明してください。

(4) 请 你 把 这 个 问 题 说 个 清 楚  
請う あなた を この 問題 言う はっきりと  
この問題をはっきり説明してください。

“个”は後ろの補語を体言化するはたらきがある。同時に、このような体言化の過程において、“个”の後ろの補語にはある種の主観性が付与される。

### 2.1.2.

“得”や“个”を持たない補語は体言性補語と用言性補語に分類できる。体言性補語というのは事物や出来事の全体に関連する補語を指す。このような補語は動作の結果ではなく、出来事全体に関連する体言の属性である。体言性補語には次のようなものがある。

時量補語：他学三年汉语了。

動量補語：小王去过三次夏威夷。

場所補語：小王把书放(在 / 到) 桌子上了。

これらの補語が目的語であるか補語であるかは意見が分かれる。しかし、体言性補語と呼ばれるのは、これらの補語が事物或いは出来事全体と関連しているからに他ならず、動作過程の自然な延長や結果では決してないのである。

### 2.1.3.

用言性補語には結果補語と方向補語がある。一般に広義の結果を表すと考えられているが、具体的な分析を進める。方向補語には主に三つのタイプがある。

(a) 空間移動型：小王走出教室。 / 田中跳进了大海。

(b) アスペクト型：天气热起来了。 / 孩子哭了下去。

(c) 事件結果型：小王坐车坐出了经验。 / 她哭红了眼睛。

空間移動型補語が表すのは具体的な空間移動であり、方向補語は移動タイプを表す。移動タイプには次の二つがある。

a. 線性タイプ：上 下 进 出 回 过

## b. 点性タイプ：到 在 向

b類の補語は一般には介詞性構造が場所補語として機能しているとされるが、構文全体から見れば、この文はやはり空間移動という出来事を表している。

ここで確認しておく必要があるのは、空間移動性事象は結果性事象とは異なるという点である<sup>①</sup>。これは主に、典型的な「動作－結果」構文における動作と結果は時系列に従って組み合わせられているのに対し、空間移動文における動作と移動タイプは同時に発生、進行することが出来ることに起因する。この点について、均一的状態を表す“V着”と同時進行を表す“一边…一边”によって比較することができる。

	“V着”	“一边…一边”
空間移動文	+ (跑着进)	+ (一边跑一边进)
「動作－結果」文	- (吃着饱)	- (一边吃一边饱)

同時に、空間移動文中における一部の身体動作と空間移動タイプは話者の強調点が異なることから相互に交換が可能である。

- (5) 坐 过来 / 过来 坐  
座る やってくる やってくる 座る  
やって来て座る。

つまり、空間移動文中における動作と移動タイプの関係は、動作の発生順、時間原則に則って組み合わせられているのではないのである。

## 2.2.

本稿でいう結果とは狭義の結果であり、動作の実現過程におけるそれ自体の状態変化や話し手の結果に対する主観的評価を意味する。本稿では「動作－結果」について次のように定義する：事象は動作の実現により、ある種の物理的或いは心理状態上の変化が起こる。ここで以下の点について、補足する。

- 1：「動作－結果」というのは事象における意味関係であり、論理上は二つの命題間の結合関係を表している。
- 2：「動作－結果」には時間順序があり、一般に動作は前に、結果は後にくる。

狭義の動的な結果には以下のタイプがある。

- (a) 時軸性結果：動作の時間軸上におけるある状態の実現のみを指す。一般に“V了”の形式が使われる。この種の結果は動作過程中的のある状態の発生、完結を表す。その視点は動作が発生或いは完結したか否かにあり、動作が実現した後の動作自

体の状態変化には言及しない。

- (b) 動相性結果：一般に“V {完/好/住/掉/…}”により表されるものを動相性結果と呼ぶ。この結果は動作自体の状態変化であり、その視点は動作が発生  
或いは完結したかではなく、動作自体の状態の変化にある。該当する用法は多  
岐にわたる。例えば、

極性：极 透 坏 死  
基準：快 慢 早 晚 迟  
状態：好 完 住 掉

- (c) 規約性結果：ある動作が実現した後の最も自然な結果を指す。例えば、

杀 → 死      晾 → 干      喝 → 醉

- (d) 非規約性結果：規約性結果以外の、動作状況を反映した常規を超えた客観結果  
を指す。例えば、

- (6) 饺子 包 快 了。 / 把 她 说 糊涂 了。  
饺子 包む 速い 変化 / を 彼女 話す ぼんやりする 変化  
餃子を速く包んだ。 / 彼女をぼんやりさせた。

- (e) 主観の評価性結果：話者の動作結果に対する評価を指す。例えば、

- (7) 饺子 包 玄 了。 / 话 说 神 了。  
饺子 包む すごい 変化 / 話 話す すごい 変化  
餃子をすごく上手に包んだ。 / 話を上手に話した。

### 3. “了”の結果性含意および関連概念

#### 3.1.

“了”の結果性の問題については、関係論文の中でしばしば取り上げられる<sup>②</sup>。“了”の結果性は以下のような“把、被”構文の中で顕著である。

- (8) 把 房子 拆 了 / 房子 被 拆 了  
を 小屋 壊す 結果 / 小屋 受け身 壊す 結果  
小屋を壊した。 / 小屋は壊された。
- (9) 把 纸 撕 了 / 纸 被 撕 了  
を 紙 裂く 結果 / 紙 受け身 裂く 結果  
紙を破いた。 / 紙は破られた。
- (10) 把 面包 吃 了 / 面包 被 吃 了

を パン 食べる 結果 / パン 受け身 食べる 結果  
パンを食べた。 / パンは食べられた。

“把、被”構文において“了”が結果補語として機能していることは明らかである。しかし、一般に“了”はアスペクトマーカ―、或いは語気の範疇とされており、“了”の異なる含意についてどのように統一的に解釈するかという問題が生じる。

この問題を解決するには、“了”の文法含意および区分に関連する概念を改めて規定する必要がある。

### 3.1.

“了”の文法意義について、一般にはアスペクト或いは語気の範疇に分類される。中国語の“了”は広い含意を持った文法マーカ―であるが、その核となる意味は“界変”であると思われる<sup>③</sup>。“界変”とは、事象状態に結果性の転換が発生したということであり、これも高度に抽象的な結果の一種である。“了”の界変結果性を理解するために、以下の違いを区別する必要がある。

#### (1) 界変と変化の違い

変化と界変の違いは次のように表すことが出来る。

$A(T) - A$  (変化:  $A \rightarrow -A$  / 界変: T)

即ち、状態 A が臨界点 T を過ぎて  $-A$  になるのである。

具体的に言えば、変化は2つの界面間における対比であり、界変とは変化中の2つの界面が転化する臨界点を指す。

界変 T は次の点に作用する。

- a. A から  $-A$  に到る変化の時点を示す。T は言語環境において常にある時点に関連する。
- b. 区切りのはたらき。  
ある状態になる : 病了 / 病了一天 / 病一天  
ある状態が終わる : 死了 / ? 死了一天 / 死一天了

#### (2) 界変と完結の違い

完結という概念は動作の範疇に属する。動詞を中心として、動詞で表そうとする動作の過程について完結 / 非完結の角度から文法範疇を映射する。これは、形態化文法の重要な手段である。英語のアスペクト範疇は動作の完成(完結)と非完成(非完結 / 進行)

を軸として時制に対応して形成される。ある一つの文法形式にテンスとアスペクトが同時にあてはめられていると言える。

	完成	進行	一般
現在	現在完成	現在進行	一般現在
過去	過去完成	過去進行	一般過去
未来	未来完成	未来進行	一般未来

この関係から、英語は「完成」と「進行」により構成される動作過程（開始－持続－完結）をテンスとアスペクトの言語認知対象とすることが分かる。同様に、日本語のテンスとアスペクトも動作過程を対象とするものである。「た」と「ている」の対立が正にこの状況を反映している。

しかし、中国語の“了”は単に動作過程だけを対象とするのではなく、動作過程の完結および動作完結後の状態の持続も含む。ゆえに、日本語における「た」と「ている」という二種類の文法範疇で表される事柄が、中国語においてはどちらも“了”によって表すことが出来るのである。比較されたい。

	“た”	“ている”
开始了	始めた	始めている
塌了	崩れた	崩れている

### 3.3.

以上の考察から、中国語の“了”は総合マーカであり、以下の基本属性を備えることが確認される。

- a 界変性：“了”は変化を表すものでもなければ完結を表すものでもなく、話者の異なる状態間の転化に対する認定を表す。このような状態の変化には、時間軸上の各種状態間における客観性の界変や心理主観的な界変も含まれる。さらに、動相性の界変と事象の界変も含まれる。
- b 具象性：“了”を含む文は必ずある種の具体的な事象である。
- c 現場性：“了”の作用は、動作や状態の変化の境界線を示すことにある。文末の“了”は発話時に関連する過去や将来に発生する出来事を示す。動詞接尾辞の“了”は過去のある時点における状態変化を表す。総じて、“了”の働きはある状態変化とある時点を関連づけることにある。

当然ながら、“了”の文法意義には結果属性が含まれる。“了”のそのような結果属性を考慮するならば、“了”とその他のタイプの結果の関係は次のようになる。

$$V (a/b/c/d/e) / (O \text{ 了}) / (\text{了} O)$$

「/」はどれか一つを選択することを意味し、「( )」は文中において存在の有無を問わない成分であることを意味する。

この公式は“了”と各結果類型における関連の属性を簡明に反映させたものであり、結果構文に対する統語的にまとめたものである。

本質から言えば、異なる言語における動作の完結、動作の結果および動作の状態間の転換に対する言語認知には違いがあるものである。英語や日本語などでは、動作が完結したか否かをテンスとアスペクトを決定する軸とする。一方、中国語では動作の完結をより抽象的なレベルでの結果の下位分類に過ぎないものとし、動作の完結や動作状態間の転換、動作結果の出現を抽象度の異なる統一体として認知する。そのような、抽象度が異なる統一体のマーカ―こそが“了”なのである。

#### 4. 結果構文の意味構造

##### 4.1.

結果構文の意味構造は次のようになる。

$$S_V \rightarrow S_R$$

これは次のように説明される：出来事  $S_V$  は意図的あるいは非意図的に関係  $\rightarrow$  を通じて結果性出来事  $S_R$  を生じる。つまり、結果構文は二つの命題によって、一定の意味関係に基づき、一定の統語手段を経て形成されるのである。

中国語の結果構文について、意味分析の複数の異なる角度から記述を行う。

##### 1) 潜在的意味関係の分類。

少なくとも以下の数タイプがある。

##### a 使役結果文

(10) 田中 写 完 了 作业 (意図的)

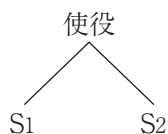
田中さん 書く 終える 完了 宿題

田中さんは宿題をし終えた。

(12) 孩子 的 哭声 惊 醒 了 妈妈。(非意図的)

子供 の 泣き声 驚く 覚める 完了 お母さん

母親は子供の泣き声に目が覚めた。



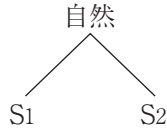


b 自然結果文

(13) 那 孩子 长 大 了。(非意図的)

その 子供 育つ 大きい 変化

その子供は大きくなった。

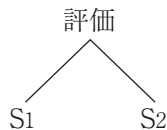


c 評価結果文

(14) 饺子 包 神 了。

餃子 包む すごい 完了

餃子は上手に包んだ。



ここでいう意味関係とはすべて結果構文における二つの命題間に潜在的に存在する意味関係であり、結果構文における顕在の意味関係は「動作－結果」である。潜在的な意味関係の中で、使役関係を持つ使役構文は比較的早くから注目された現象であり、大量に見られる。しかし、潜在の意味関係にはさらに自然や評価といったタイプがある。そのため、使役関係を結果構文の典型的な意味関係と見なすという考え方については議論の余地がある。問題のカギは潜在の意味関係と顕在の意味関係を分類することにある。中国語の結果構文については、上述の使役、自然および評価関係こそが潜在の意味関係である。また、顕在の意味関係とはまさしく「動作－結果」の関係である。これは自然言語論理において重要な意味関係の一つである。

2) 意味指向からの分類

文の意味構造においては、少なくとも三つの構造に分けることが出来ると思われる。即ち、物的な構造、動的な構造および心的な構造である。物的な構造とは文の意味構造における名物性成分を指す。伝統的な文法でいう他動性成分に相当し、動作主、受け手、道具、場所などのことである。動的な構造とは意味構造における動作、状態および関連属性を指し、例えばアスペクトなどが該当する。心的な構造とは意味構造における主観性の成分であり、評価と認定などを指す。

a 物的な構造指向型：この動詞結果構文の意味指向は文中の物相性構造内の各成分で

ある。物相構造の成分には次のものが含まれる。

動作主：小王喝醉了 / 孩子长大了

受け手（対象 / 生産物）：小王打碎了碗 / 饺子包大了

道具：刀都砍钝了

場所：墙上贴满了画

b 動的な構造指向型：この結果構文の意味指向は動作或いは状態の各種属性である。

例えば、

時軸：他哭了起来 / 田中唱了下去

極性：今天热极了 / 今天热死了

基準：小王来早了 / 他吃多了

状態：文章写好了 / 农民们过上了好日子

c 心的な構造指向型。この動詞結果構文の意味指向は話者の態度や評価である。例えば、

評価：饺子包神了 / 东西买贵了

意味指向の本質は動詞結果構文中の二つの命題をマークする結合点にある。例えば、施事指向型が意味するのはその動詞結果構文における二つの命題の接合点が施事であるということである。

### 3) 主体性からの分類

ここでいう主体性とは事象の主体が動作や結果についてコントロール可能か否かを指し、制御出来る関係は「有意」であり、制御できない関係は「無意」である。

a 使役型：事象が主体や外部からの影響で変化が起きたことを指す。

(15) 信 写 好 了。(動作有意 / 結果如意)

手紙 書く 良い 完了

手紙は書き終えた。

(16) 地址 写 错 了。(動作有意 / 結果不如意)

住所 書く 間違う 完了

住所は書き間違った。

(17) 孩子 的 哭声 吵 醒 了 妈妈。(動作无意 / 結果不如意)

子供 の 泣き声 驚く 覚める 完了 お母さん

母親は子供の泣き声に目が覚めた。

(18) 远处 来 的 歌声 逗乐 了 孩子。

(動作无意 / 結果如意)

遠いところ 流れる 来る 構造助詞 歌声 笑わせる 完了子供  
遠くから聞こえる歌声に子供は喜んだ。

- (19) 小王 气 跑 了 小李。(動作有意 / 結果有意)

王さん 怒る 走る 完了 李さん  
李さんは王さんに怒って走って行ってしまった。

- (20) 他 写 反 了 地址。(動作有意 / 結果无意)

彼 書く 逆だ 完了 住所  
彼は住所を反対に書いた。

- (21) 那 工作 累 坏 了 他。(動作无意 / 結果无意)

指示詞 仕事 疲れる 程度補語 完了 彼  
その仕事にかれはひどく疲れた。

- (22) 枪声 吓 跑 了 小李。(動作无意 / 結果有意)

銃声 驚かす 走る 完了 李さん  
李さんは銃声に驚いて走り去った。

使役型の結果構文であるSVは行為文であり、SRは状態／結果文である。SVとSRの間に「使役する／使役される」という関係が存在する。意図的に使役とは主体の意図性を含むもので、動作の結果の如意性（如意か不如意か）というのは話者の視点である。

b 自然型：事象に自然に発生する変化を指す

- (23) 小王 弄丢 了 钱包。

王さん なくす 完了 財布  
王さんは財布をなくしてしまった。

- (24) 这 孩子 又 长 高 了。

指示詞 子供 副詞 育つ 高い 変化  
その子供はまた背が高くなった。

自変型動詞結果文のSVは抽象的意味の行為動作あるいは存現文で、SRとは一般に規約性の状態である。SVとSRのあいだには「使役する／使役される」という関係はなく、ある種の自然変化の関係である。このような動詞結果構文は主観性を含意しない。

c 評価型：動詞結果構文のSRが話者の態度を表すものを指す。

- (25) 他 饺子 包 神 了。

彼 餃子 包む 上手だ 完了  
彼は餃子を上手に包んだ。

- (26) 他 话 都 说 玄 了。

彼 話 すっかり 話す すごく上手 完了

彼は話をすっかりすごく上手に話した。

#### 4.2.

結果構文の意味問題を討論する際は、関連する構文と比較し、さらに広範なカテゴリの中から結果構文の意味類型特徴を観察しなければならない。

少なくとも以下の数方面から動詞結果に関連する構文システムについての考察が可能である。

a 意図の有無：主語が意図を含意するか否か

意図的：妈妈让孩子写作业。

非意図的：地震使大家吃了一惊。

b 結果の有無：動作が結果を伴うか否か

結果：他把杯子打碎了。

非結果：老师叫学生写作业。

c マーカーの有無：マーカーがあるか否か

有標：这消息使他很高兴

無標：小王喝醉了酒。

d 現場性の有無：動作過程が現場性を備えるか否か

現場：小王打碎了杯子。

非現場：小王把杯子打碎了。

これらの基準から結果義を含意する構文について分類することが可能である。

	意図	結果	マーカー	現場性
把構文	±	+	-	-
被構文	-	+	-	-
使役構文	±	±	+	+
重動構文	-	+	-	-
動結構文	±	+	-	+

この表から、結果構文とその他関連構文との違いは、結果構文は時間の流れに沿っており、いわば時間軸上で結果性の出来事を叙述するのに対し、その他の構文では結果性事象を内嵌している下位事象としている。例えば、

把字構文 小王把桌子擦干净了。

被字構文 桌子被小王擦干净了。

使役構文 妈妈让孩子写完作业。

重动構文 小王喝酒喝醉了。

結果構文 小王喝醉了酒。

上述の各構文はそれぞれ独自の文法価値があり、どの種類の構文の文法価値もその他の構文では置き換えることが出来ないものである。当然、これらの構文の中心的意味がどのようなものであるかを明らかにすることは目下の研究における重要な課題であるが、以下の三点は明らかであると言えるだろう。

- 1) 結果構文は、把構文、受け身文、使役分、連動文とは異なる次元の構文である。結果事象は把構文、受け身文、使役分、連動文における内嵌している下位事象である。逆に言えば、上述の各構文は結果事象を含む上位事象である。
- 2) 結果構文と把構文、受け身文、使役分、連動文は、いずれも使役義を含意するが、この使役義は決してこれらの構文に顕著な文法意味ではない。つまり、これらの構文における最高レベルの文法意義ではないのである。
- 3) 結果補語構文で表そうとするのは時間の流れを軸とした具体的な行為であり、客観的な叙述である。一方、それ以外の構文はいずれも多少なりとも主観性を持っており、話者の結果性事象における責任者（把構文）、意外性（受け身文）、外在的な動因（使役文）および連続的な動作（連動文）に対する認定を表している。

## 5. 統語的なふるまい

### 5.1. 統語手段

#### 5.1.1.

異なる言語において「動作－結果」という事象を表現する際、用いられる統語的手段は異なるものである。これは主に二つの面に現れる：一つは異なる言語の「動作－結果」の意味選択に対する違いで、これは主に意味範囲および意味の側面が異なる点に現れる。もう一つは使われる統語手段が異なるというものである。

理論上、人類言語が「動作－結果」という事象を表現する際には、少なくとも以下の文法手段が考えられる。

- (一) 二つの節形式。前節は行為を表し、後節が結果を表す
- (二) 節合併形式
- (三) 動詞結果補語フレーズ形式
- (四) 結果動詞形式

5.1.2.

中国語の「動作－結果」構文が表す特徴は、英語、日本語との対照からその一斑をうかがうことが出来る。

(a) 中国語、英語、日本語において、いずれも裸の結果動詞文があり、この文は単命題文となる。

(27) 我 赢 了 这 场 比赛。

私 勝つ 完了 この 量詞 試合

私はこの試合に勝った。

(28) Mary broke the glass.

(29) 田中さんは卵を割った。

しかし異なる言語における結果動詞の数と用法は異なるものである。例えば、英語と日本語では、break と「割る」というのは単独で動作行為文を構成することが可能であるが、中国語でそれに対応する“碎”は単独で動作行為文を構成することが出来ず、必ず行為動作を加えなければならない。次の例を比較されたい。

(30) ?小王 碎 了 鸡蛋

王さん 割る 完了 たまご

(31) 小王 打 碎 了 鸡蛋。

王さん 打つ 割る 完了 たまご

王さんは卵を割った。

(b) 節合併形式において、それぞれの言語は異なる統語的ふるまいとなる

漢：施事－（動作－結果）－対象                      小王打碎了杯子

英：施事－動作－対象－結果                      He pushed the door open.

日：施事－対象－（結果性修飾語）動作              田中は部屋を白く塗った。

施事－対象－（動作－結果）                      田中はドアを押し開けた

まさにこのため、日本語の「かれは綺麗に部屋を掃除した。」という文には幾つかの訳が可能である。

(32) 他 干干净净地 打扫 了 房间。(動作过程描写, 突显过程)

彼 きれいに 掃除する 完了 部屋

彼は部屋をれいに掃除した。

(33) 他把房间打扫得干干净净。(结果状态描写, 突显状态)

(34) 他把房间打扫得很干净。（结果评价，突显评价）

(35) (35) 他把房间打扫干净了。（结果描写，突显结果）

## 5.2. 結果キャンセル文

異なる結果タイプは、言語が違えば文法表出形式も異なる。反対に、異なる文法表出形式は正しく異なる認知類型の影響を受けた結果類型の文法上の表出であるとも言える。ここで「結果キャンセル文」を例にとる。いわゆる「結果キャンセル文」とは Tai1984 において論じた“昨天我写了一封信，但是没写完。”のような構文である。討論を進めるべく、先ず次の例を比較していただきたい

(36) 昨天 我 写 了 一 封 信 ， 但 是 没 写 完 。

昨日 私 書く 完了 一 量詞 手紙 しかし 否定詞 書く 終わる  
？ 昨日私は手紙を一通書いたが、書き終わらなかった。

a 昨天我写了信，但是没写完。（○）

b 昨天我写了封信，但是没写完。（○）

c 昨天写了那封信，但是没写完。（○）

d 昨天我写了两封信，但是没写完。（？）

e 昨天我写了那封信，但是还是没写完。（○）

“昨天我写了一封信，但是没写完”について成立するか否かは意見が分かれるが、その原因は“一”を軽声で読むか否かにある。軽声で読む場合は成立し、なぜなら数量の限界化が起こっていないからで、軽声で読まない場合は、“一”が“信”を実数化するために、実数化された動作は結果とは共起できない。しかし軽声で読む場合は、“写信”が一般性の動作として存在するため、量的な限界化がされずに、動作結果と共起することが出来る。“指量”形式も成立するが、なぜなら指量化は実数化と同じではなく、“指量”と“数量”というのは範疇の異なる単位だからである。

“昨天我写了一封信，但是没写完”は二つの命題から構成されており、その構文の意味は、前件で動作主が為そうとするある動作行為について述べ、後件ではその意図的な行為に関連する結果を否定する。それゆえこのような文型を仮に「結果キャンセル文」と呼ぶが、類似の文には次のようなものがある。

(37) 我 买 了 那 本 书 ， 但 没 买 到 。

私 買う 完了 その 量詞 本 しかし 否定詞 買う 達成する  
？ 私は昨日その本を買ったが、買えなかった。

(38) 他 看 了 那 篇 论 文 ， 但 没 看 完 。

彼 見る 完了 その 量詞 論文 しかし 否定詞 見る 終える  
 ?彼はその論文を読んだが、読み終わらなかった。

(39) 小王 修了 那 輛 車, 但 没 修 好。

王さん 修理する 完了 その 量詞 車 しかし 否定詞 修理する 良い  
 ?王さんはその車を修理したが、直らなかった。

ここで重要なのは、結果キャンセル文中で否定される結果というのは帰約性の結果であるという点である。次の例を比較されたい。

非帰約性結果文

(40) 我 买 错 了 一 本 书。 ? 我 买 了 一 本 书, 但 没 买 错

私 買う 間違う 完了 一 冊 本

私は本を一冊買い間違えた。

(41) 他 看 丢 了 一 篇 論 文。 ? 他 看 了 一 篇 論 文, 但 没 看 丢

彼 見る 失う 完了 一 篇 論文

彼は論文を見て無くした。

(42) 小 王 修 坏 了 一 輛 車。 ? 小 王 修 了 一 輛 車, 但 没 修 坏

王さん 修理する 悪い 完了 一 台 車

王さんは車を修理し損なった。

ある動作の帰約性結果は複数存在することもあり、これらの帰約結果は全てこの構文を用いて表現することが可能である。

(43) 我 看 了 这 本 书, 但 没 看 完。

私 見る 完了 指示詞 量詞 本 しかし 否定詞 見る 終える

私はこの本を読んだが、読み終わらなかった。

(44) 我 看 了 这 本 书, 但 没 看 懂。

私 見る 完了 指示詞 量詞 本 しかし 否定詞 見る 分かる

私はこの本を読んだが、分からなかった。

同様に、ある動作の非帰約性結果も複数存在するが、これらの非帰約性結果はどれもこの構文に使うことはできない。

(45) ? 我 看 了 这 本 书, 但 没 看 腻。

私 見る 完了 指示詞 量詞 本 しかし 否定詞 見る 飽きる

私はこの本を読んだが、見飽きなかった。

(46) ? 我 看 了 这 本 书, 但 没 看 厌。

私 見る 完了 指示詞 量詞 本 しかし 否定詞 見る 飽きる



私はこの本を読んだが、見飽きなかった。

結果キャンセル文は異なる言語においては異なる表現形式となる。日本語に関して、影山太郎（1995）では、次のような文は英語に翻訳しにくいという。

(47) その湿った丸太は、燃やしても燃えなかった。

(48) お父さんは、起こしてもおきなかった。

(49) 切っても切れない縁。

反対に、これらの文は比較的自然に中国語の結果キャンセル文に翻訳することが可能である。

(50) 那 个 湿 圆木, 怎么 烧 也 没 烧 着。

それ 量詞 湿った 丸太 どのように 燃やす 強意 否定詞 燃える 達成する

その湿った丸太は、どうやっても燃えなかった。

(51) 父亲 怎么 起 也 没 起来。

父親 どのように 起きる 強意 否定詞 起き上がる

父親はどうしても起きなかった。

(52) 怎么 切 也 切 不 断 的 缘份。

どのように 切る 強意 切る 不可能 断つ 構造助詞 縁

切っても切れない縁。

しかし、以下の例から分かるとおり、中国語は日本語よりも結果キャンセル文に対してより寛容性がある。

(53) ? 覚えたが、覚えられなかった。

(54) ? 捕まえたが、捕まらなかった。

(55) \* 張三は李四を殺したが、李四は死ななかった。

これらの文は日本語では言えないが、中国語では言うことができる。

(56) 记 了 但 没 记 住

覚える 完了 しかし 否定詞 覚える 安定する

覚えたが覚えられなかった。

(57) 抓 了 但 没 抓 住

捕まえる 完了 しかし 否定詞 捕まえる 安定する

捕まえたが捕まらなかった

(58) 张三 杀 了 李四, 但 李四 没 死。

張三 殺す 完了 李四 しかし 李四 否定詞 死ぬ

張三は李四を殺したが、李四は死ななかった。

ゆえに、次のように結論付けることができる。中国語の動作過程を表す動詞はみな常規性結果キャンセルの統語属性があるが、中国語の結果を表す動詞は常規性結果キャンセルの統語属性を持つことが出来ない。

結果をキャンセルすることが出来るかという観点から、Vendler1967の動詞分類をさらに二類にまとめることが可能である。

結果	
状態	達成

活動	
活動	実現

意味分析から見て、結果という概念は複合的な概念である。結果は原型状態を指すことも出来れば、変化後の状態を指すことも出来る。

中国語の結果型動詞には次のようなものがある。

- a 結果動詞：死、丟、塌、干
- b 方向動詞：去、来、上、下、进、出、回、过
- c 存在動詞：在、有
- d 判断動詞：是
- e 心理動詞：知道、相信、爱、认为
- f 動補型複合動詞：扩大、打倒、推翻

中国語のこのような結果型動詞は結果キャンセル文における統語属性が活動動詞のそれとは異なる。例えば、

(59) 他 破 了 世界记录。 ? 他破了世界记录但没破了

彼 破る 完了 世界記録

彼は世界記録を破った。

(60) 我 果断地 和 他 断 了 联系。 ? 我和他果断地断了联系但没断了

私 きっぱりと と 彼 断つ 完了 連絡

私はきっぱりと彼との連絡を断った。

“破”と“断”は典型的な結果製動詞であり、そのため結果を打ち消すことが出来ない。反対に、活動動詞であれば結果を打ち消すことが可能である。

(61) 我吃了面包。 我吃了但没吃完。

(62) 我 写 了 信。 我写了但没写完。

私 書く 完了 手紙 私 書く 完了 しかし 否定詞 書く 終わる

私は手紙を書いた。                      私は手紙を書いたが書き終わらなかった。

同様に、“V了O”構造は結果キャンセル文においても異なる統語的ふるまいを見せる。

a ? 他（已经）吃了饭              ? 田中（已经）睡了觉              ? 小王（已经）唱了歌

b 他（已经）回了老家。      田中（已经）去了北京。      小王（已经）到了上海。

a類は一般に言わないが、b類は成立する。a類は次のように言うことができる。

(63) 他吃了饭，但没吃饱。

彼 食べる 完了 ご飯 しかし 否定詞 食べる 満腹だ  
彼はご飯を食べたが満腹にならなかった。

(64) 田中 睡 了 觉，但 没 睡 着。

田中 眠る 完了 眠り しかし 否定詞 眠る 達成  
田中さんは眠ったが、眠れなかった。

(65) 小王 唱 了 歌，但 没 唱 完。

王さん 歌う 完了 歌 しかし 否定詞 歌う 終わる  
王さんは歌を歌ったが、歌い終わらなかった。

b類は次のように言うことが出来ない：

(66) ? 他 回 了 老家，但 没 回 了。

彼 帰る 完了 実家 しかし 否定詞 帰る 完了  
彼は実家に帰ったが、帰らなかった。

(67) ? 田中 去 了 北京，但 没 去 成。

田中 行く 完了 北京 しかし 否定詞 行く 達成する  
田中さんは北京に行ったが行けなかった。

(68) ? 小王 到 了 上海，但 没 到 了。

王さん 着く 完了 上海 しかし 否定詞 着く 完了  
王さんは上海に着いたが着かなかった。

しかし次のようにすれば成立する。

(69) 他（已经）回 了 老家，但 可能 还 在 路上。(動作達成中)

彼 既に 帰る 完了 実家 しかし もしかしたら まだ いる 途中  
彼は既帰省したが、もしかしたらまだ道中かも知れない。

(70) 田中（已经）去 了 北京，但 现在 可能 还 在 火车上。(動作達成中)

田中 既に 行く 完了 北京 しかし 今 かもしれない まだ いる 駅  
田中さんは既に北京に行ったが、今はまだ駅にいるかも知れない。

(71) 小王（已经）到了上海。（着点）

王さん 既に 着く 完了 上海

王さんは既に上海に着いた。

### 5.3. 文型選択

結果タイプの違いは、文型の選択にも違いをもたらす。例えば、非常規結果は一般に把構文や受身文、連動文中に出現しやすい。

結果構文：	？小王包神了饺子	？他说神了那件事儿
把構文	小王把饺子包神了。	他把那件事儿说神了。
被構文	饺子被小王包神了。	那件事儿被他说神了。
連動文	小王包饺子包神了。	他说那件事儿都说神了。

しかし、常規性結果は一般的に連動文には用いられない。

(72) ？小王写作业写完了。 ？田中喝酒喝醉了。

王さん 書く 宿題 書く 終える 完了 田中 飲む 酒 飲む 酔う  
完了

王さんは宿題をやってやり終えた 田中さんは酒を飲んで酔っぱらった。

### 5.4. 統語整合のメカニズム

中国語の結果構文は動作－結果の直接的文法出現である。このような文法出現のメカニズムは、中国語がどのように豊富な意味内包を線性の統語形式に実現していくかという過程を指す。そこには主に三つの手順があると思われる。

(a) 合併：動詞結果構文内の行為命題と結果命題内の同一項の合併を指す。

(73) 小 王 喝 酒 (行為) → 小王 醉 了 (物的な結果) (施事合併)

王さん 飲む 酒 王さん 酔う 完了

王さんは酒を飲む 王さんは酔っぱらった。

(74) 他 打碎 了 碗 (行為) → 碗 碎 了 (物的な結果) (受事合併)

彼 割る 完了 お碗 お碗 割れる 完了

彼はお碗を割った お碗は割れた

(75) 田中写完 了作业 (行為) → 写 完 了 (動きのな結果) (動作合併)

田中 書く 終える 完了 宿題 書く 終わる 完了

田中さんは宿題をやり終えた やり終わった

(76) 他包神了饺子 (行為) → 包神了 (心的な結果) (動作合併)

彼 包む すごい 完了 餃子 包む すごい  
彼は上手に餃子を包んだ 上手に包んだ

(b) 削除：合併後の同一項を削除する。

(77) 小王 喝 酒 酔 了  
王さん 飲む 酒 酔う 完了  
王さんは酒を飲んで酔った。

(c) 帰位：結果項の帰位を指す。

(78) 小王喝醉了酒  
王さん 飲む 酔う 完了 酒  
王さんは酒に酔っぱらった。

## 6. 言語認知類型学からの解釈

### 6.1.

人類の異なる言語間には、認知類型上多くの違いが存在する。池上嘉彦 1981 の指摘によれば、英語は「する」型の言語であり、日本語は「なる」型の言語であるという。さらに、英語と中国語の対照を通じて、戴浩一はかつて「中国語は結果を重視する言語である」と指摘し、さらに趙元任も「中国語は話題を重視する言語である」と指摘している。実は、これらの重要な考え方はどれも言語認知類型学研究に具体的に寄与するものである。日中言語対照においても、大量の事実が日本語と中国語の認知上の違いを示している。例えば、

日本語	中国語
(79) 電話中です	正在打电话
(80) 会議中です	正在开会

同じような活動行為の事象について、日本語では判断文を用いて表すが、中国語では行為文を使う。

日本語	中国語
(81) びっくりした	(你) 吓了我一跳

同じような使役事象（使役行為－使役結果）について、日本語は結果だけを選択し、話者の自我感受文として表現するが、中国語では客観的な使役形式を使う。

### 6.2.

中国語の“動作－結果”の統語表現は、言語類型学における重要な特徴の一つである。即ち、中国語の「動作－結果」は一般に動作の順序に従って展開する。比較されたい。

我吃饱了。(動作結果)                      小王喝醉了(動作結果)

我饱了。(状態)                              小王醉了。(状態)

状態と動作結果は異なる範疇であるため、区別して扱わなければならない。しかし、日本語においては、動作と動作結果は単独で出現することができ、その上動作結果に動作を含むことが出来る。

王さんはコップを壊した。              田中さんは卵を割った。

日本語において「壊す」、「割る」というタイプの動詞は動作結果を表すことも出来れば、動作自体を指すことも出来る。反対に、中国語には次のような表現がある。

a 小王打碎了杯子。○(動作-結果)      a 田中捏碎了鸡蛋。○(動作-結果)

b 杯子碎了。○(状態)                      b 鸡蛋碎了。○(状態)

c 小王打杯子。○(動作)                      c 田中捏鸡蛋。○(動作)

d 小王碎了杯子。×(結果)                      d 田中碎了鸡蛋。×(結果)

a類の文は中国語の典型的な結果構文である。b類は状態文であり、文中には動作主が出現しない。c類は動作文である。d類が言えないのは、中国語の動作結果は必ず動作-結果という時間順序の中で展開しなければならないが、文中に動作を欠くためである。さらに、

她破了世界纪录。                              她们断了联系。

このような文は日本語においても言えるが、中国語では次のように言うことも出来る。

她打破了世界纪录。                              她们切断了联系。

しかし、このような文は日本語においては結果動詞(自動詞/他動詞)において表されることが多く、動詞フレーズによる形式を使用する必要はない。さらに例を挙げる<sup>④</sup>。

a 他认真地读了那本书。

b 他认真地读完了那本书。

aは結果補語を伴っていないが、bは結果補語“完”を伴う。この二文はどちらも成立するが、日本語に翻訳した場合、aは成立するが、bは成立しない。

a' 彼は真面目にあの本を読んだ。○

b' 彼は真面目にあの本を読み終えた。×

これらの例は次のことを意味する。中国語では“认真”という類の状態性の用言修飾語は動作過程も修飾できれば、「動作-結果」も修飾できる。しかし日本語では、同様に状態性の用言修飾語である「まじめに」は動作過程しか修飾することが出来ず、「動作-結果」を修飾することは出来ない。しかし、もし日本語の例文bの「真面目に」を「ようやく」に換えたら、bの文は成立するようになる。

彼はようやくあの本を読み終えた。○

これは、日本語の用言修飾語の意味タイプは、動作過程と「動作－結果」に対しても意味の選択があるということを意味する。このような選択は中国語の意味選択とは異なるものである。また、関連する問題に以下の現象がある。

a 他紧紧地抓住了我的手。○ b 他紧紧地抓了我的手 ×

他牢牢地记着这句话。○ 他牢牢地记这句话 ×

各ペアを比較すると、中国語の“紧紧”、“牢牢”の類の連用修飾語は「動作－結果」に対して強制的な意味選択を有し、動作過程については意味上の非強制性があることが確認される。以下の比較はこの事実を支持するものである。

她轻轻地拉了我一下。○ 她轻轻地拉住我的手。○

她死死地盯了我一眼。○ 她死死地盯着我。○

“轻轻”類は“牢牢”類とは異なり、動作過程と「動作－結果」のどちらに対しても選択性がある。しかし、次の例はどちらも不成立である。

她轻轻地拉住我一下 ×

她死死地盯着我一眼 ×

この二文が成立しない原因は、動作の持続性結果（住 / 着）と短時間で完結する動量間（一下 / 一眼）における意味組み合わせ上の矛盾にある。よって、補語とその及ぶ成分との間における概念の組み合わせにより、補語が成立するか否かが決定するのである。そして、概念の組み合わせとは、異なる言語観の認知類型上の違いを反映しているのである。

### 6.3.

同一の事象について、言語が異なれば、視点、意味的な認知方策、統語が事象をどのように切り取るかなどに違いが出る。それは、その事象の特定言語内における意味内包と統語内包を構成する。同時に、異なる言語によって同一事象を反映する際の認知構造も異なることを意味する。その為、概念の組み合わせ、命題の組み合わせ、さらには事象間の組み合わせも言語によって異なり、この違いは正に当該言語の文法的核心と本質的特徴なのである。

中国語の文法は意合文法である。その意合性は、中国語が概念や命題さらに事象間の直接的な結びつきを特徴とするものであることに表れている。この点は形態によって文法構造を統括する言語とは明らかに異なる。文法の意合性はどの言語においても備わるが、中国語文法における意合性はまさしく中国語文法の本質なのである。

筆者の中国語文法を研究する基本理念は以下の通りである。

- (1) 文法とは、一言で言えば意味範疇や意味特徴間における組み合わせ規則の体系である。文法の形態と形式は意味範疇と意味特徴からなり、異なる言語で形態化や文法化された内容は部分的なものであり、また違いがあるものである。ゆえに、形態や形式は決して文法の全体ではない。
- (2) 文法は決して文法形式の美学ではなく、人類の経験構造からなる表現規則の体系であり、人類の常識的な表現規則の体系とも言える。当然ながら、人々の経験構造には論理体系（概念、判断、推理）と認知体系（感覚、知覚、表象）があるが、経験構造は論理体系や認知体系の総和よりも大きいものである。
- (3) 人類の認知体系には広義認知と狭義認知の二系統がある。狭義認知とは、感覚、知覚、表象と概念、判断、推理等のことで、これらは現代認知心理学における諸範疇である。広義認知には狭義認知の諸範疇も当然含まれるが、より大切なのは人類の経験構造と常識構造の表現体系である。
- (4) 表現規則の体系は認知体系（感覚、知覚、表象）とは異なるものであり、人類の常識体系や経験構造を符号化する規則の体系なのである。このような符号規則の体系は、各言語において凝縮される経験構造や常識構造の違いにより、異なるものである。換言すれば、異なる表現規則とその体系は、正に言語が異なれば凝縮される経験構造や常識体系は違うものであることを反映しているのである。筆者は、言語におけるこのような経験構造、常識構造の違いを、広義の認知タイプの違いであると考え。ゆえに、言語が異なればその経験構造と常識構造も異なり、当然、その意味構造と認知構造も異なるのである。

### (Endnotes)

- ① この点に関して中根綾子（2005）が示唆に富む。本稿は基本的に中根（2005）でいう、方向補語は動作の結果を表していない、という結論に同意する。しかし、中根（2005）では“爬到了树上”の“爬到”を動詞結果補語とするが、“爬上了树”の“爬上”は動詞方向補語であるとする。この点については本稿と見解が異なり、本稿の観点では“到”や“上”はどちらも移動タイプであると考え。ただし“到、在”の類は点性の移動タイプであるのに対し、“上、下、进、出、回、过”は線性の移動タイプである点で異なる。
- ② 中川裕三（2007）では、“了”が表すことが出来る文法意味について、「結果含意の角度から改めて考慮する必要がある」とする。
- ③ 張黎（2003）を参照のこと。
- ④ この例は陆丙甫氏により提供された。



## 参考文献

- 宋文辉（2007）现代汉语动结式的认知研究，北京大学出版社。
- 施春宏（2008）汉语动结式的句法语义研究，北京语言大学出版社
- 木村英树（1983）关于补语性词尾着 /zhe / 和了 /le/, 《语文研究》1983年，第2期。
- 郭继懋 王红旗（2001）粘着补语和组合补语表达差异的认知分析《世界汉语教学》第2期，北京语言大学
- 陆俭明（1990）“VA了”述补结构语义分析，《汉语学习》第1期。
- 马真 陆俭明（1997）形容词作结果补语情况考查，《汉语学习》第1、4、6期。
- 王占华（2007）关于汉语动词的结果蕴含，《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社。
- 中川裕三（2007）论汉语的句式与动作结果含义之间的关系，《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社，又见日本《中国语学》（1995）。
- 下地早智子（2007）语法现象里视点用法的日汉差异—直指性移动动词、被动表述以及时态 / 时制的情况，《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社。
- 张黎（2003）“界变”论—关于现代汉语“了”及其相关现象，《汉语学习》第1期。
- 张黎（2007）汉语“把”字句的认知类型学解释，《世界汉语教学》第3期，北京语言大学。
- 张黎（2007）汉语位移句的语义结构和认知类型学的解释，《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社。
- 张黎（2008）汉语补语的分类及其认知类型学的解释，《对外汉语研究》总第4期，商务印书馆
- 影山太郎（1996）動詞意味論 — 語言と認知の接点— くろしお出版
- 中根綾子（2005）動趨式が表す本質的意味—動結式との対照から 見日本《中国语学》252号
- 池上嘉彦（1981） 「する」と「なる」の言語学 大修館書店
- Vendler, Zeno. (1967) .Linguistics in Philosophy. Ithaca : Cornell University Press
- Tai, James H. -Y. (1984) “Verbs and Times in Chinese: Vendler’ s four Categories, ”  
*Lexica Semantics*. Chicago Linguistics Society. 288-296.

